

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/03/03

### ウクライナ情勢が世界を暗くするか

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	経済指標を確認しながら 予想レンジ: 86.400 ~ 93.700 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	引き締め開始なるか関心が集まる 予想レンジ: 80.700 ~ 88.000 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	↘	政府と中銀の温度差 予想レンジ: 8.800 ~ 9.900 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



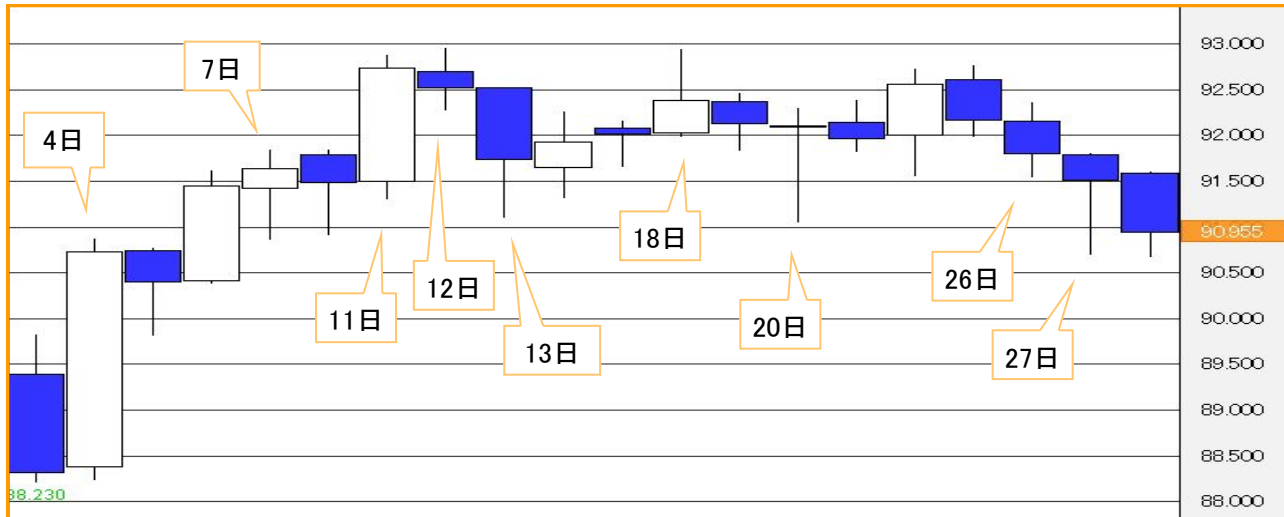
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD / JPY

## 豪ドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	89.393円	92.952円	88.230円	90.955円



4日	豪準備銀行(RBA)が声明で「金利の安定期間を設けることが最も妥当となる公算が大きい」などと指摘して従来の緩和的スタンスを中立に変更した上、前回の「豪ドルは依然、不快なほど高水準」を削除した。これを受けて豪ドル/円は90円台を回復した
7日	RBAが四半期金融政策を公表し、インフレ見通しについて2014年半ばが3%、15年半ばは2.25-3.25%と昨年11月時点から上方修正(2.5%、2-3%)し、GDP見通しについても14年半ばが2.75%、14年末は2.25-3.25%(前回:2.50%、2-3%)とした。ただ、豪ドル買いの反応は一時的であった。
11日	豪第4四半期住宅価格指数が前期比+3.4%、前年比+9.3%と予想(+3.0%、+8.6%)を上回り、豪1月NAB企業信頼感が8と前回(6)を上回った事を受け、豪ドル/円は上昇。その後、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の議会証言を受け、市場では量的緩和の一段の縮小を乗り切る事ができるほど米景気は力強いとの楽観論が浮上してNYダウ平均株価が上昇すると、92.882円まで続伸した。
13日	豪1月失業率が6.0%(予想:5.9%)と2003年7月以来の水準に悪化し、新規雇用者数は0.37万人減、労働参加率は64.5%(同:1.50万人増、64.6%)となった。これを嫌気して豪ドル/円は1円超急落した。
18日	日銀金融政策決定会合終了後、貸出支援基金の1年延長と融資枠を3.5兆円から7.0兆円に拡充すると発表したことを受けて日経平均株価が大幅に上昇すると、豪ドル/円が92.950円まで上昇。ただ、買いの勢いが一服すると下げ幅を縮小した。
20日	中国2月HSBC製造業PMI・速報が48.3と予想(49.5)を下回り、7か月ぶりの低水準となったことを嫌気して豪ドル/円が91.058円まで急落。ただ、その後は米2月製造業PMI速報値が予想(53.6)を大きく上回る56.7となった事を受けてNYダウ平均株価が上昇すると、92.307円まで反発した。
26日	アボット豪首相が「カンタス航空がやっていることは、カンタスの問題だ」と発言すると、市場で豪政府はカンタス航空を支援しないとの見方が広がり、豪ドル/円は下落。その後「プーチン露大統領が西部軍管区で緊急軍事演習の実施、および戦闘対応能力の点検を命じた」との報道を受け、ロシアがウクライナに軍事介入するのではとの懸念が浮上してリスク回避ムードが強まると、91.582円まで一段安くなった。
27日	豪第4四半期民間設備投資が前期比-5.2%と予想(-1.3%)を大きく下回った。これを嫌気して、豪ドル/円は下落。その後、ウクライナ情勢不安も重石となり、90.706円まで続落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

1月の豪ドル/円相場は88.230～92.952円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.8%の上昇(豪ドル高・円安)となった。新興国市場が混乱した流れを引き継いで安く始まるも、その後は新興国不安が緩んだことから反発した。前月下落の反動や、RBAの政策スタンスがそれまでの緩和的から中立に変更した事も、豪ドル買いを誘った。ただ、月末にかけてウクライナ情勢不安が台頭し、上げ幅を縮小した。

先月、RBAが政策スタンスを変更し、今後のインフレやGDP見通しを上方修正したとはいえ、先月のRBA理事会の声明で「設備投資の当面の見通しは依然として抑制されている」とした上、弱い雇用など、豪経済は力強さを欠いている。当面の豪ドル/円相場は、RBAの次の一手を探るべく、豪国内の経済指標や貿易的結びつきの強い中国の景況感に一喜一憂することとなりそうだ。

また、ウクライナ情勢には注意したい。3日朝、同国情勢の緊迫化を嫌気して市場にリスク回避ムードが広がり、豪ドル/円は90円割れ目前まで下落する場面が見られた。市場では可能性は低いと見ている参加者が多数であるが、軍事衝突に至るようだと、リスク回避ムードにより豪ドル売りが強まる事になろう。(川畑)

(予想レンジ: 86.400～93.700円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

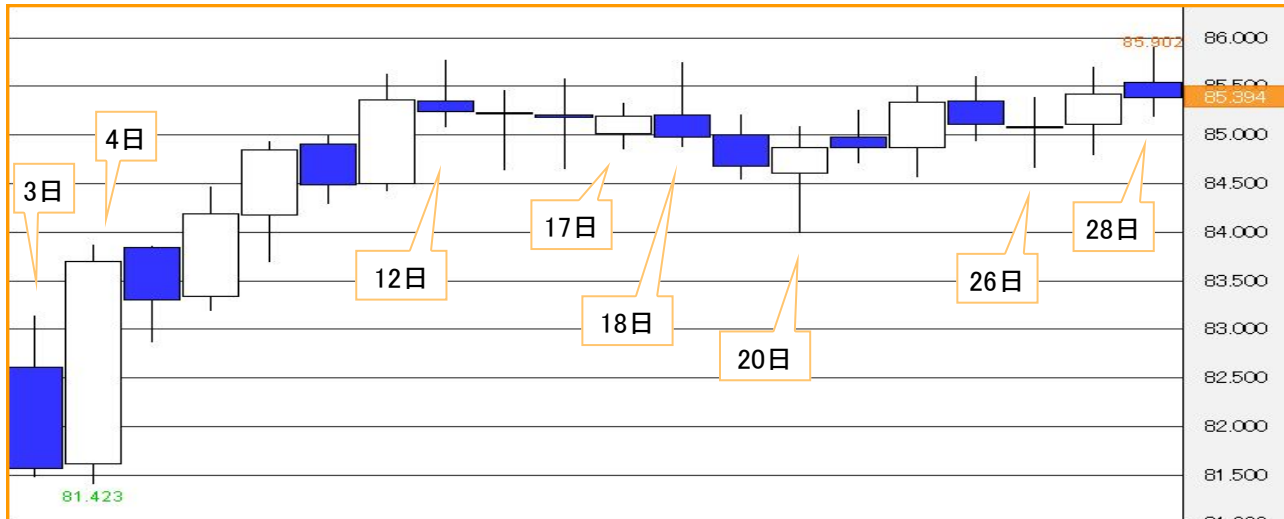
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(土)	2月中国製造業PMI	3/8(土)	2月中国貿易収支
3/3(月)	2月米ISM製造業景況指数	3/9(日)	2月中国消費者物価指数
3/4(火)	1月豪住宅建設許可件数	3/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)
	RBAキャシュターゲット	3/13(木)	2月豪雇用統計
3/5(水)	中国全国人民代表大会開幕		2月中国小売売上高
	第4四半期豪GDP		2月中国鉱工業生産
	2月米ADP全国雇用者数		2月米小売売上高
	2月米ISM非製造業景況指数	3/14(金)	3月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	米地区連銀経済報告(ページブック)	3/18(火)	RBA議事録
3/6(木)	1月豪小売売上高		2月米消費者物価指数
	1月豪貿易収支	3/19(水)	米FOMC政策金利発表
	欧州中銀金融政策発表	3/24(月)	3月中国HSBC製造業PMI
3/7(金)	2月米雇用統計		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# NZD / JPY

## NZドル/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.614円	85.902円	81.423円	85.394円



3日	NZのイングリッシュ財務相の「RBNZ(NZ準備銀行)は3月に利上げを実施すると広く予想されている」との発言を受け、NZドル/円は83.146円まで値を上げるも一時的。その後、米1月ISM製造業景況指数が市場予想を大きく下回った事を受けてNYダウ平均株価が急落すると、81.493円まで反落した。
4日	NZ財務相の「NZドルの水準は快適ではない」との発言が伝わると、NZドル/円は81.423円の安値を付けた。ただ、その後はNYダウ平均株価の上げ幅拡大を受けて反発。NZ第4四半期失業率が事前予想通り6.0%となるも、労働参加率が68.9%、雇用者数増減は前期比+1.1%と予想(68.6%、+0.6%)を上回った事を受け、引けにかけて83.876円まで急反発した。
12日	中国1月貿易収支の黒字額が318.6億ドルと予想(234.5億ドルの黒字)を上回った上に、輸出入ともに前年比で10%を超える大幅な増加となった。これを好感してNZドル/円は85.777円まで上昇した。
17日	NZ第4四半期小売売上高指数は前期比+1.2%と予想(+1.7%)を下回ったが、NZドル/円相場の反応は一時的となった。
18日	日銀金融政策決定会合終了後、貸出支援基金の1年延長と融資枠を3.5兆円から7.0兆円に拡充すると発表したことを受けて日経平均株価が大幅高となり、NZドル/円が一時85.754円まで上昇。ただ、買いの勢いが一服すると反落した。
20日	中国2月HSBC製造業PMI速報が48.3と予想(49.5)を下回り、7か月ぶりの低水準となったことを嫌気してNZドル/円が84.003円まで急落。ただ、その後は米2月製造業PMI速報値が予想(53.6)を大きく上回る56.7となった事を好感してNYダウ平均株価が上昇すると、一時85円台を回復した。
26日	「プーチン露大統領が西部軍管区で緊急軍事演習の実施、および戦闘対応能力の点検を命じた」との報道を受け、ロシアがウクライナに軍事介入するのではとの懸念が浮上。リスク回避ムードが強まり、NZドル/円は一時84.669円まで下落した。
28日	NZ1月住宅建設許可は前月比-8.3%と予想(-3.5%)を大きく下回るもNZドル/円相場の反応は薄かったが、2月ANZ企業景況感が70.8%と前月(64.1)を大きく上回った事を好感して上昇した。予想を上回る米経済指標を受けてNYダウ平均株価が上昇すると、85.902円まで続伸。ただ、その後はウクライナ情勢不安から同株価が一時マイナスに転じた事を嫌気して反落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## 今月のポイント

# NZD / JPY

2月のNZドル/円相場は81.423円～95.902円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.4%の上昇(Nドル高・円安)となった。新興国市場が混乱した流れを引き継いで安く始まるも、その後は新興国不安が緩んだことから反発した。RBNZの3月利上げ開始観測が保たれた事もまた、NZドル買いを後押しした模様である。

今月のNZドル/円は、RBNZが利上げを開始するかが焦点となろう。昨年12月、RBNZは「今後2年3カ月で2.25%の利上げ」と言及しており、これに沿って考えると今後3カ月に1回のペースで利上げを行う計算となる。前回1月は金利を据え置いたことで、市場では3月利上げがコンセンサスとなっている。仮に利上げを実施する場合、金融引き締めサイクルに変化がないかを確認したい。また、NZドルが金利先高観や対円での金利差拡大観測で買われるためには、市場がリスクを積極的に取ることができる環境が必要となる。ウクライナ情勢や中国経済に対する不安が一服となるか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 80.700～88.000円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

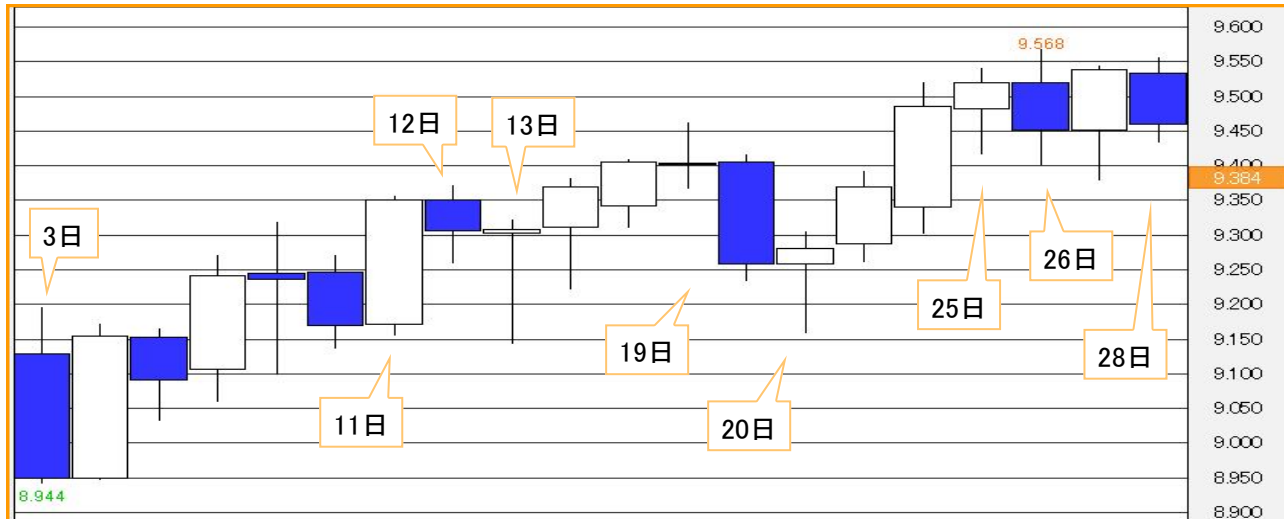
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(土)	2月中国製造業PMI	3/12(水)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
3/3(月)	2月米ISM製造業景況指数	3/13(木)	2月中国小売売上高
3/4(火)	第4四半期NZ失業率		2月中国鉱工業生産
3/5(水)	中国全国人民代表大会開幕		2月米小売売上高
	2月米ADP全国雇用者数	3/14(金)	3月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	2月米ISM非製造業景況指数	3/18(火)	2月米消費者物価指数
	米地区連銀経済報告(ページブック)	3/19(水)	米FOMC政策金利発表
3/6(木)	欧州中銀金融政策発表	3/20(木)	第4四半期NZGDP
3/7(金)	2月米雇用統計	3/24(月)	3月中国HSBC製造業PMI
3/8(土)	2月中国貿易収支	3/27(木)	2月NZ貿易収支
3/9(日)	2月中国消費者物価指数	3/31(月)	2月NZ住宅建設許可
3/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.130円	9.568円	8.944円	9.461円



3日	米1月ISM製造業景況指数が市場予想を大きく下回った事を受けてNYダウ平均株価が急落。これを嫌気してランド/円は2012年10月以来となる8.944円の安値を記録した。
11日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が議会証言でゼロ金利政策の長期化を示唆した事を受け、NYダウ平均株価が上昇。これを好感してランド/円は一時9.357円まで値を上げた。南ア第4四半期失業率が予想(24.9%)を下回る24.1%となり、前回分が修正(24.7%→24.5%)された事も追い風となった。
12日	南ア12月小売売上高は前年比3.5%と予想(+2.8%)を上回り、前回分が上方修正(+4.2%→+4.4%)されたが、市場の反応は薄かった。
13日	予想を下回る米経済指標をうけてNYダウ平均株価が安く始まると、ランド/円は一時9.1631円まで下げるも、その後は同株価の切り返しを受けて下げ幅を縮小した。なお、南アのズマ大統領が「ランドの下落は著しいインフレリスクをもたらす」と発言するも、ランド相場の反応は薄かった。
19日	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が公表され、タカ派的な内容を受けてNYダウ平均株価が下落すると、ランド/円は9.236円まで下落した。南ア1月消費者物価が前年比+5.8%と予想(+5.6%)を上回り、南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(+3~6%)上限に迫った事も重石となった模様。
20日	中国2月HSBC製造業PMI・速報が48.3と予想(49.5)を下回り、7か月ぶりの低水準となったことを嫌気してランド/円が9.161円まで下落。ただ、その後は米2月製造業PMI速報値が予想(53.6)を大きく上回る56.7となった事を好感してNYダウ平均株価が上昇すると、9.306円まで下げ幅を縮小した。
25日	南ア第4四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+3.8%と予想(+3.4%)を上回った事を受け、ランド/円は小幅に上昇した。なお前年比が+2.0%と予想(+2.1%)をわずかに下回り、前回分は下方修正(+1.8%→+1.7%)され、2013年通期では+1.9%と前年(+2.5%)から伸びが鈍化したが、材料視されなかった模様である。
26日	南ア政府が2014年のGDP見通しを従来の3.0%から2.7%に引き下げた。これを嫌気してランド売りが優勢となり、ランド/円は一時9.403円まで値を下げた。
28日	南ア1月貿易収支の赤字額が171億ランドと予想(122億ランド)を上回った。これを受け、ランド/円が小幅に値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

2月のランド/円相場は8.944円～9.568円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは3.2%の上昇(ランド高・円安)となった。新興国市場が混乱した流れを引き継ぎ、3日に2012年10月以来の安値を記録するも、その後は新興国不安を煽る大きな材料が出なかった事もあり、じり高で推移。もっとも、南アの貿易赤字幅拡大や鉱山ストの長期化、インフレの進行など、依然としてランドを積極的に買う材料は乏しく、その後は1月高安の半値戻し(9.5035円)付近で伸び悩んだ。

南アは経常赤字国である上にインフレ懸念もあり、米量の緩和の一段の縮小観測によりドルが買われる場面や、中国経済の減速やウクライナ情勢の一段の緊迫化などによりリスク回避ムードが強まる場面ではランド相場に再び売り圧力が掛かりやすい。

足下のランド安の見解について、政府と中銀の間に温度差があり、先月ズマ大統領はランド安進行を懸念したものの、マーカスSARB総裁は先月26日に「ランド安がショックを吸収」と発言している。もし1月のリスク回避局面が再び訪れるのならば、SARBのランド安防衛姿勢が試されよう。また、もし、SARBが足下のインフレを理由に今回の会合で追加利上げに踏み切ったとしても、ランド安防衛姿勢を打ち出さないと、1月同様ランド相場への影響は限られそうだ。

なお、ドル/ランド相場を見ると、今年1月に11.39ランド台まで上昇(＝ランド安)した後は伸び悩んでいるものの、依然として上昇チャネル(下限: 今月は9.88ランド台)を維持。チャネル下限を割り込まない限りランド安局面が継続すると考えられる。ランド/円相場を見通す上で、こちらの動きにも気を配りたい。(川畑)

(予想レンジ: 8.800～9.900円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(土)	2月中国製造業PMI	3/13(木)	2月中国小売売上高
3/3(月)	2月米ISM製造業景況指数		2月中国鉱工業生産
3/5(水)	中国全国人民代表大会開幕		2月米小売売上高
	2月米ADP全国雇用者数	3/14(金)	3月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	2月米ISM非製造業景況指数	3/18(火)	2月米消費者物価指数
	米地区連銀経済報告(ページブック)	3/19(水)	2月南ア消費者物価指数
3/6(木)	欧州中銀金融政策発表		米FOMC政策金利発表
3/7(金)	2月米雇用統計	3/24(月)	3月中国HSBC製造業PMI
3/8(土)	2月中国貿易収支	3/27(木)	2月南ア生産者物価指数
3/9(日)	2月中国消費者物価指数		SARB政策金利発表
3/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)	3/31(月)	2月南ア貿易収支
3/12(水)	第4四半期南ア経常収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。